

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

エンゲージメントに必要な3つの要素

1. 約束、契約、婚約など、様々な結びつきを意味するエンゲージメント。日本では今、企業と社員との「従業員エンゲージメント」が崩壊している。社員の仕事への熱意、会社への帰属意識は世界125カ国で最低だ。若手のやる気をそいでいるのが、いまだ残る従弟的な上意下達の風土だ。自ら考えて動く社員の力を引き出せなければ、日本企業の将来は暗い。
2. 1990年ごろ、米ゼネラル・エレクトリックのジャック・ウェルチ会長(当時)が「従業員エンゲージメントを何よりも優先しろ」と説いたことで注目され始めた。個人のやる気を指す「モチベーション」や、「従業員満足度」とは異なる概念だ。エンゲージメントが低い企業では生産性が落ちたり、新規事業の創出などが進まなかったりするほか、社員の離職が増えるリスクが高まる。さらに業績や株価指標との相関も指摘されている。
3. 権限委譲とフィードバック(社員の良さや誰かが誰かをほめる等)に加えて、エンゲージメントとの相関が注目されているのが「心理的安全性」。崩壊状態の日本のエンゲージメントだが、この3つの要素をしっかり根付けば、従弟的な「やらされ仕事」の風土が薄まり、ぶら下がり社員は減っていくだろう。今からでも遅くはない。エンゲージメントを立て直す時だ。

(参考:「日経ビジネス」2024年1月29日号)

人事・労務について

人手不足でも広がる早期退職募集

1. 2023年に早期・希望退職者を募集した上場企業は41社(前年38社)で、前年を3社上回った。社数が前年を上回ったのは3年ぶりだ。募集開始の直近決算で黒字の企業は21社、赤字の企業は20社と拮抗する。黒字21社中14社が東証プライム上場だった。業種別では、情報通信が11社で前年の3社から急増。次いで電気機器、アパレル関連、医薬品が各5社だった。
2. 人手不足が深刻さを増す中で募集企業が増加したことは、業績悪化だけが理由でなく、コロナ禍以降の市場や需要の変化、コストプッシュのインフレ加速など新たな時代に対応した、人員調整による構造改革への活発な動きともみられる。24年は大企業や中小企業でも募集がさらに増える可能性が出てきた。

(参考:「週刊東洋経済」2024年2月17日号)

経営者のための経営学

普遍性の高い視点を原理原則という

佐藤等(ドラッカー学会共同代表理事)

1. 20数年前に出会ったドラッカーの著作群が私に教えてくれた新しい視点は、組織社会を生きるための基本作法だったのです。普遍性の高い視点は原理原則と呼ばれ、これに反する行為は結局成就することはありません。「基本と原則に反するものは、例外なく時を経ず破綻する」エッセンシャル版『マネジメント』。
2. たとえば、組織は人類が生み出した社会の道具なので、もし顧客を欺いたり、故意に損害を与えたりすれば、例外なく破綻します。ドラッカーを読む意味とは、本質的な視点を自己の中に取り込み、原理原則に従いながら自己変革することにほかなりません。ドラッカーは、今を生きるためのもう一つの重要な作法を教えてください。1960年代以降、私たちが生きている組織社会は「知識社会」という性格を帯びるようになりました。

(参考:「致知」2024年4月号)

古典に学ぶ

あなたが変われば現実も変わる

1. 「善因楽果、悪因苦呆」という言葉があります。これは、よい因があれば心が楽になる結果が得られ、悪い因があれば心が苦しくなる結果を得るという意味です。
2. この言葉を指針にすると、とるべき行動がおのずと見えてくるはずです。あなたが動けばそれに合わせて影が動くように、あなたの行動が変われば、現実もその通りに変わっていくのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)